

ラーニング・コモンズにおける学生支援

桑名杏奈*・池田佳奈子**

お茶の水女子大学 教育開発センター*、情報基盤センター**

Student Support in the Learning Commons of Ochanomizu University Library

Anna KUWANA* and Kanako IKEDA**

Ochanomizu University, Center for Research and Development of Education*, IT Center**

ラーニング・コモンズについて

大学図書館には、1980年代からサービスエリアにコンピュータが導入された。はじめは目録検索など図書館の所蔵資料を調べるために、コンピュータがネットワークに接続されるようになると情報収集やコミュニケーションのために、「道具」として活用されてきた。

1990年代、米国の大学図書館において、ラーニング・コモンズの前身である「インフォメーション・コモンズ」が生まれる。コモンズとは「共有資源」「公共の場」を意味する言葉であり、インフォメーション・コモンズはデジタル時代の情報資源を利用するための共有資源・公共の場として誕生したものである。

コンピュータ・インターネット・デジタルコンテンツ・マルチメディアなど情報通信技術の発達により、大学の講義・学習のあり方は大きく変化した。また、図書館利用者の大半を占める学部学生は「ネット世代」といわれる年代、すなわち、一般家庭にコンピュータ・インターネットなどが普及し、日常的にそれらを使っている世代に移りつつある。ネット世代の特徴として「マルチタスク・活動的」「グループ学習指向」「実地的学習を行ってきた」「消費者であるとともに生産者」「ビジュアル指向である」などが挙げられる。変化する学習形態・利用者のニーズを満たすために、従来図書館が提供してきた「個々の学生の勉強のための静かなスペース」だけでなく、「公共の場」が必要になってきた。欧米の一部の大学では早くから、グループワークのできる小部屋や、何人かで相談しながら1台のコンピュータを使う仕組みなどが導入されている。

“User Services, Not Just Information Services

(Lippincott, 2006)”の言葉の通り、インフォメーション・コモンズは単なる情報サービスではなく、利用者へのサービスを提供するべく、従来よりも広い範囲をカバーする支援体制が求められる。たとえば、レファレンスカウンターでの図書・文献に関するサービスだけでなく、情報機器に関する技術的な支援や、レポート・論文のライティング支援、キャリア支援など、学生生活に関わる様々な要求を幅広く支援する必要も出てくる。支援スタッフはそれぞれの分野の訓練を受けている必要があり、そのためには図書館以外の学内組織との協働が必要になってくる。協働が進んでサービスの視野が従来の図書館の活動範囲を超えた領域に踏み込んだとき、「ラーニング・コモンズ」という言葉が使われる。(Bailey & Tierney, 2002; 永田, 2008; 米澤, 2006)

本学のラーニング・コモンズは、全学的な教育改革の動きに連動し、2007年4月に図書館内に新しく学生のための学習空間として設置された。本学にとってラーニング・コモンズは「21世紀型文理融合リベラルアーツ教育」を象徴する場であり、学内の各部署が連携して運用すべき協働の場でもある(茂出木, 2008)。

本稿ではラーニング・コモンズの設備として非常に重要であるコンピュータ・プリンタ・ネットワークなどの情報機器と、その支援体制について、機器の設置・管理に携わる情報基盤センターの立場から紹介する。

本学のラーニング・コモンズの情報機器

2012年2月現在、ラーニング・コモンズ内で学生が利用できる情報機器は次の通りである。

・教育用端末



Figure 1 教育用端末 (Mac)



Figure 3 短時間の作業に人気の高い「とまり木 PC」



Figure 2 教育用端末 (Windows)

- Mac OSX v10.6 (41 台)
- Windows 7 (30 台)
- Mac/Win デュアルブート (3 台)
- ・印刷とコピーが可能な複合機 (1 台)
- ・スキャナ (1 台)
- ・電源・情報コンセント付の席 (8 席)
- ・無線 LAN (図書館内ではどこでも無線 LAN を使用可能)
- ・OS・ソフトウェアなどのマニュアル本、論文の書き方などに関する本

特定の OS でのみ動くアプリケーション、特定のブラウザでのみ閲覧できるウェブサイト（就職活動関係に多い）があるため、Mac・Windows 両方の端末を設置している。教育用端末の設置された教室で行われる講義の課題をラーニング・commonsで行う学生は多いが、特定の教室でのみ利用できるアプリケーションが一部にあるため、各教室と同じ端末を数台ずつ設置している。

電源・情報コンセント（認証ネットワークによりインターネット接続が可能）付の席は、ラーニング・commons発足当時は利用者が少なかったが、「マイパソコン」¹、「中期貸パソコン」²、「ロッカーパソコン」³などの取り組みによりノートパソコンの利用者が増加し、現在は頻繁に利用されている。

教育用端末やロッカーパソコンから、複合機に印刷ジョブを送信することができる（設定すればマイパソコンなどからも可能）。USBメモリ内のファイルを手早く印刷したい人のために、印刷専用端末も用意されている。印刷物を綴じたり切り貼りしたりするための文房具も用意されている。

情報機器に関わる支援体制

ラーニング・commonsには、利用者のサポート役として大学院生に「ラーニング・アドバイザー」として常駐してもらっている。授業におけるティーチング・アシスタントと同様、学生からの質問に答えるのが主



Figure 4 複合機、スキャナ、印刷専用端末

な仕事である（桑名，2010）。よくある質問として

- ・コンピュータの基本的な使い方（電源の入れ方・ログインの方法）

- ・大学のメール画面（Active!mail）へのログインの方法、メール送受信の方法、携帯電話への転送設定方法

- ・ソフトウェアの使い方（Office、ブラウザに関することが多い）

- ・印刷方法など複合機の使い方

- ・ヘッドホンの音量調節の方法など、周辺機器について

- ・USBメモリの使い方（差込口・ファイルの開き方、取り外し）

- ・ノートパソコンを学内のネットワークに接続する方法

などが挙げられる。

上記の質問対応だけでなく、ラーニング・コモنزの機器の不調・トラブルを情報基盤センターに報告する仕事もある。機器は情報基盤センターにて設置・管理しているが、少人数の教職員で大量の機器を常にきめ細かくフォローすることは難しい。常駐のラーニング・アドバイザーがラーニング・コモنزと情報基盤センターとの橋渡し役を担い、快適な情報環境の提供を可能にする。学外からの見学者の方からも「プリンタ（コピー機）のそばに人がいるというのは大きい（紙詰まりを含めた機械トラブル、印刷のしかた、紙・トナーの補充などの面で、安心して使える環境である）」「有線・無線の認証ネットワークの利用についても、いつでも質問できる人がいるというのは良い」と、好評価を頂いている。

また、図書館入口付近の席に常駐していることから、図書館内・学内施設への道案内、図書・文献検索などに関する初歩的な案内、図書館内のトラブルに対する初動など、図書館業務への協力をすることもある。逆に、ラーニング・アドバイザーが不在・対応中の時に図書館職員に情報機器の対応をしてもらうことも多い。ラーニング・アドバイザーは、まさに「学内の各部署が連携して運用すべき協働」を象徴する存在であると思われる。

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であること、21世紀の社会が必要とする高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成することを大学の目標として掲げている。繰り返すことになるが、本学のラーニング・コモنزは、知識



Figure 5 ラーニング・アドバイザー（左）と質問をする利用者（右）

や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が進む21世紀に対応できる人材を育てる「文理融合21世紀型リベラルアーツ」の象徴的存在である。さらに「リベラルアーツ」の基盤の上に、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ女性の育成を謳った「学生主体の新しい学士課程の創成」プロジェクトが発足、基礎と専門の知識を連携させることを目指して2011年度から「複数プログラム選択型専門教育」が導入された。ラーニング・アドバイザーはこの「学生主体の新しい学士課程の創成」プロジェクトからの支援により運営されている。2012年2月現在、文系理系専攻問わずM1からD3まで20名のラーニング・アドバイザーが在職しており、交代でその任に当たっている。

今後の予定

利用者の増加、および個々の利用者の利用時間の増加に伴い、時期（学期始め・終わりなど）や、時間帯（昼休み・夕方など）によっては機器が足りないほど混雑する場合がある。2012年2月現在、複合機1台の移設と、「ロッカーパソコン」の増設を予定している。

注

*1 学部1年生に「マイパソコン」を持つことを推奨：設定されたパソコンをただ利用するのではなく、学生本人が管理者としてパソコンを持ち、各種設定を行い、活用するスキルを身につけることを目標とする。「パソコン活用室」にて開催される講習会では、マイパソコンの主体的な活用を支援する。事情によりマイパソコンを用意できない場合は、貸与プログラムも用意している。

*2 学部2年生以上・大学院生向けに「中期貸パソコン」



Figure 6a ロッカーパソコン（読み取り部に学生証をかざす）



Figure 6b ロッカーパソコン（パソコンを借り受ける）

を用意： パソコンを管理するための基礎的な知識を既に会得した上級生を想定。OS やウィルス対策ソフトのアップデートなどを含めた管理は、学生自身が行う。半年単位の貸出（延長可能）。パソコンは情報基盤センターが用意している。

*3 附属図書館に「ロッカーパソコン」を設置： 学生証（IC カード）で自動貸出・返却のできるロッカーを用意。図書館内で自由に利用ができ、帰宅時にロッカーに返却する。パソコンの設定は変更できない（管理ソフトがインストールされており、パソコンを再起動すると保存されたファイルや施した設定の変更などが全て削除されるようになっている）。パソコンは情報基盤センターが管理している。

参照文献

- Joan K. Lippincott. (2006) Linking the Information Commons to Learning. *Library Spaces*. 7.1-7.18.
- Russell Bailey & Barbara Tierney. (2002) Information Commons Redux: Concept, Evolution, and Transcending the Tragedy of the Commons. *The Journal of Academic Librarianship*, 28 (5), 277-286.
- 桑名杏奈 (2010) 「情報共有を目的とした LMS (Moodle) 利用の一例」『高等教育と学生支援：お茶の水女子大学教育機構紀要』1, 56-58.

- 永田治樹 (2008) 「大学図書館における新しい「場」インフォメーション・commons とラーニング・commons」『名古屋大学附属図書館研究年報』7, 3-14.
- 茂出木理子 (2008) 「ラーニング・commons の可能性：魅力ある学習空間へのお茶の水女子大学のチャレンジ」『情報の科学と技術』58 (2), 341-346.
- 米澤誠 (2006) 「インフォメーション・commons からラーニング・commons へ」『カレントアウェアネス』289, 9-12.

参照ウェブサイト

- 21 世紀型文理融合リベラルアーツ：
<http://www.ocha.ac.jp/la/>
- 学生主体の新しい学士課程の創成：
<http://www.ocha.ac.jp/nsep/home/>
- お茶の水女子大学図書館：
<http://www.lib.ocha.ac.jp>
- 情報基盤センター：
<http://www.cc.ocha.ac.jp>
- パソコン活用室：
<http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/>

2012年3月10日 受稿